

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術VI	1	30	1	滝口 有沙
ねらい	観察のひとつとしてのフィジカルアセスメントの方法と根拠を理解し、看護につなげられるための技術を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1・2回目	ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントに必要な技術(問診・視診・触診・聴診・打診) 健康歴聴取 全体の概観 健康歴聴取 記録・報告の実際	講義		
3・4回目(岡田教員)	高齢者のフィジカルアセスメントとその実際	講義・演習		
5・6・7・8回目	呼吸器系／循環器系／乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 呼吸器系／循環器系疾患患者のフィジカルアセスメントの実際 ＜シミュレーター(フィジコ)を使用＞	講義・演習		
9・10・11回目	腹部(消化器系)／筋骨格系／脳神経系／頭頸部・感覚器系／ 外皮系のフィジカルアセスメント	講義・演習		
	腹部(消化器系)／筋骨格系／脳神経系／頭頸部・感覚器系／ 外皮系のフィジカルアセスメントの実際＜シミュレーター(フィジコ)を使用＞	講義・演習		
12回目	症状のアセスメント 症状から考えられる原因・緊急度の判断	講義		
13・14回目	シミュレーション演習／フィジカルイグザミネーションのタスクトレーニング ＜シミュレーター(フィジコ)を使用＞	演習		
14.5回目	まとめ	講義		
15回目	終講試験			
教科書	「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I」医学書院 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア			
評価方法	筆記試験・シミュレーション課題・GW (計100点)			
備考	繰り返しの練習でフィジカルイグザミネーションは身に付きますが、根拠を学び、正しい知識とともに技術を習得したうえで、アセスメントし言語化することで初めて対象の状態を知ることができます。難しい單元かと思いますが、解剖生理学・病態生理学・基礎看護技術など既習内容を復習しながら学び、実践に向けて基礎的な知識・技術・思考過程を身につけられるように一緒に頑張りましょう。演習では、シミュレータ(フィジコ)を活用し、より実践的な内容を行うことで、看護実践能力の向上を目指します。			